

文部科学大臣賞 カラフル



島根県 海士町立海士中学校 3年 井手上 漠

昔から女の子のする遊びが楽しくて自分に合っている気がしていました。サッカーをするよりお人形で遊ぶ方が何倍も楽しかったのです。

そんな僕が「自分は人とは違う。変わっている」と気がついたのは小学校高学年の頃でした。

「気持ち悪い。」

いきなり、耳を疑うような言葉が僕の耳に飛び込んできました。え、僕のこと？僕のどこが気持ち悪いの？

その日から僕は周りから変な目で見られているように感じました。そこから、少しずつ自分を変えようと思いました。肩まであった長い髪をバッサリ切って、なるべく周りの男子に合わせました。鏡を見る度、理想の自分ではない自分が映っていて本当に辛かったです。

けれどそのときの僕はありのままの自分ではいられなかったのです。楽しくはなくてもできるだけ男子と関わろうとしてみました。無理をするのは思っていたよりも何倍も何倍も苦しかったです。色のない、白黒の毎日でした。

そんな僕を認めてくれたのは母でした。

母は言いました。

「漠は漠のままでもいいんだよ。それが漠なんだから」と。

無理をして固くなっていた心が解けていくように感じました。母は僕のすべてを分かってくれていました。女の子と遊ぶ方が落ち着くことも、髪が長い方が自分らしいと思っていることも、そして、そんな自分は変わっていると悩んでいることさえも・・・。

母が味方でいてくれるなら僕はありのままの僕でいよう、周りの目なんて気にしない、自分らしくいよう、母のためにも楽しく生きようと強く強く思いました。

その日から僕は自分らしいしゃべり方で自分らしい仕草で自分らしい毎日を送っています。自分らしく堂々と生きていくと自然と友達も僕を理解してくれ、楽しく話せる人も増えていきました。僕の世界が少しずつ色づき始めました。僕のことを変な目で見ていた人たちとも今では仲良くなっています。母の愛情のおかげです。

僕には将来の夢があります。それは美容師になることです。成長するにしたがって、僕は美容やファッションに興味を持ち始めました。雑誌を読んで研究することも大好きです。今は自分を美しくすることに夢中ですが、将来は人を美しくする、そしてたくさんの人に喜んでもらいたいと思うのです。

もし今、ありのままの自分を認めることができず、悩んでいる人がいたら僕は伝えたい。あなたはこの世界にいなければならない人だということを。

世の中にはいろいろな人がいます。自分と同じ人間は世界中どこを探してもいません。考えることも好きなことも大切なことも一人ひとり違うのです。一人ひとりが違うからこそ、相手に興味がわき、もっと知りたいと思ったり、愛しく思えたりするのではないのでしょうか。

雨上がりの空にかかる虹が美しいようにさまざまな色が輝き、調和すればこの世界はもっと美しくなると思うのです。一人ひとりが自分を自由に表現できる世界。そんなカラフルな世界を一緒に作っていきましょう。